

はばたき

NO. 20



1986.7

神戸市立王子動物園

動物たちにとって安住とは

動物についての最近の話題として、上野のパンダ2世の誕生と鹿児島平川動物公園のコアラの出産が明るいニュースとして取り上げられた。

その反面には名古屋東山動物園のコアラが闘争が原因で死亡した悲しいニュースもあった。

これについては、オーストラリアの動物保護団体が今後一切コアラの国外輸出を禁止するよう政府に働きかけた。コアラ、パンダをはじめ珍獣の死亡原因の多くは飼育環境の違いからくるストレスの蓄積が原因であるとされている。

種々な条件が重なって病気の起因になるが、何でもかんでもストレス症候群による死亡と安易に片付けられているのも事実である。

世界の各地で動物園がつくられ数多くの野生の動物が飼育下で展示されるようになってから僅か1~2世紀しかならない。飼育下の動物の種類は非常に多いが習性、病理などまだまだ解明されていない部分が多く、それぞれの経験と勘で飼育されているのが現状である。とくに、動物の心理面に対する研究は或る種の動物を除いては手付かずの状況である。通常の飼育技術でその種のためといろいろ工夫をこらしているがその割に好結果が得られない。動物にとって人間の常識が正反対の環境を生み出している場合が多いと思われる。

動物園で人気の高いものにフラミンゴがある。その美しい姿体と色彩は多くの観客を引付け、子供たちの描く写生画も年々多くなっている。

このフラミンゴに異変が起った。人間に限らず動物の繁殖時は静かな物蔭という今までの概念とは相異し、衆人環境の中で隣同志と賑やかな観客とは僅か2m程のところ産卵、抱卵、育雛をする。考えて見ればフラミンゴの生息地では何百万羽、何千万羽という大群が湖沼で集団繁殖をしているのである。しかし、動物園では脱出すると一羽数十万円もする貴重な動物がファイになると、風切羽を切って飛べなくしている園が多い。また夜間は安

全な寝小舎へ追込むなどあまりにも大事に取り扱い過ぎて本来の習性に逆った状況をつくっている。

そこで、野犬防止のため囲りのフェンスを少し高くして侵入を防ぐとともにカラス害と脱出防止のために軽量の農業用ネットを運動場上部に張った。給餌と産卵場の土入以外は手を加えず自由にさせた。効果はテキ面ですれ以後好調な繁殖が続いている。もちろん、慎重な管理と注意深い観察は言うまでもない。

抱卵時に前後左右の仲間とくちばしでの争が絶えないが、井戸端会議のおしゃべりが唯一の精神衛生向上の手段であったと同様に、これが彼女らのストレス解消策である。

出来るだけその種に合った環境を造ってやり、それ以外はいたずらに人手を掛けない方が動物たちにとって安住と言えるのでは思っている。

神戸市立王子動物園長 福岡 順三

もくじ

◆動物たちにとって安住とは	2
◆キリン輸送大作戦	3
◆動物育児日記	
●アシカの人工保育	6
●果下馬の育児	7
◆かわいい動物の親子	8
◆飼育うらばなし	
●夜の動物観察記第1報	10
◆動物なぜなぜ問答	
●ウナギの穴掘り	12
●鼻は口ほどものを言う	12
◆動物もの知り手帳	
●鳥の病気	13
◆トビックス	14
◆うら表紙	
●版画で見る王子動物園	

表紙写真 ヨーロッパカワウソ

(撮影 福田元二)

キリン輸送大作戦

中国・天津市への動物護送記

神戸市の友好都市である中国・天津市との動物交流は本年度で満10年を迎えました。この間に、王子動物園から天津動物園へ贈られた動物はキリン、カバ、カラカル、カンガルー、フラミンゴなど11種、天津動物園からはタンチョウ、オオヤマネコ、レッサーパンダ、フランソワルトン、カケイ類など7種、さらに、昭和56年に開かれたポートピアにはジャイアントパンダが、又、昭和60年のグリーンエキスポにはキンシコウがそれぞれペアで神戸に来ています。このように、王子動物園と天津動物園とは密接な関係があり、昭和59年にはこの友好動物園として永遠に友好関係を保つ約束をしております。

さて、今回はキリンとクロヒョウの雌を贈ることになり、私たち2人はこれら動物の輸送の任務に当ることになりました。動物を海外へ輸送する時は中、小型のものであれば飛行機を用い短時間で輸送しますが、長い首を持つキリンは船で輸送するしか方法はありません、神戸から天津まで順調に行って約4日間の船旅、私たちにとって最も心配だったのは悪天候で海が荒れないだろうか、ということでした。キリンは首が長いので船酔をしやすく、狭いオリの中で何が起こるか分からない、十分世話ができるだろうか、病気やけがはしないだろうか、など。



▲三宮のビル街を通るキリン

出発前には十分準備を整え、万全を機しましたが、やはり心配でした。

この動物たちを輸送してくれたのは中国の貨物船「橙雲号」(6,500t)で乗組員30人、もちろん全部中国の人たちで日本語は通じませんが十分意志は通じ、その人たちの心暖かい友情と協力、それに天候にも恵まれて無事天津まで輸送することができました。

そこで、この動物の輸送記録から拾って書くことにしました。

◆6月8日(出発前日)

午後4時からキリンの輸送オリ収容作業が始まる。どこかへ連れて行かれることを予感したのか入らない、えさで誘ってもダメ、人が入って追い込んでダメ、2時間経過したが入らない。動物園の飼育係全員がこの作業に従事する、だんだんと日が暮れ気があせってくる。大きな板を作り人の手で押し込むことにする。板をみんなで人間6人対キリン1頭、何回となく押し込んだり押し返えされたり、遂に一瞬のスキを見てオリに押し込むことに成功、作業が終った時は午後8時、4時間の死闘でした。

◆6月9日(出発の日)

午後1時、動物園にレッカー付トラック到着、積込み作業開始、多くの報道カメラマンが取り



◀中国貨物船「橙雲号」に積込み



▲船上のクロヒョウのおり

まく。キリンは何をされるのか心配顔。1時30分動物園裏口から出発、近くの子供たちの声援を受けて一路神戸港へ、長身のキリンであるため電線、歩道橋、道路標識、街路樹を避けながら広い道路を右へ寄ったり左へ寄ったり、トラックの上には2人の飼育員が乗り長い棒で電線を上げたり街路樹の枝を払ったり、電車のガードはキリンが首を下げてくれたので難なく通過、比較的交通量の多い道だけに交通渋滞、正に「そのけ、そのけ、キリンが通る」三宮では道行く人が足を停めてキリン見物、午後3時やっと岸壁へ到着、関係者や船員たちが見守る中で無事積み込みが完了した。キリンも疲れたのか呼吸が早く心配であったが、午後4時神戸港を出港、天津への旅が始まった。船長はじめ船員の人たちは天津へ無事とどけることを事約してくれ一安心、飼料の準備をしながら遠ざかっていく六甲の山々をしばし眺めた。午後9時、キリンは速かった呼吸も治まりえさも食べたようでひとまず安心。何げなく空を見上げると澄みきった夜空に星がキラキラ、星空がこんなに美しいものかとしみじみ見つめながら第一夜は過ぎていった。

◆6月10日、天候良好、海おだやか

午前6時、キリンは少しえさを食べ、水も飲んでいる。今日は野菜を与えることにする。クロヒョウに肉を与える。私たちが船員と同じ食事を一緒に食べることにした。普通、この船は神戸を出て四国沖を南下し九州南端を回って黄海に入るコースをとるが、今回は大切な動物をす早く天津へ送り届けることが先決であるため、コースを変更し、四国沖から豊後水道を経て関門海峡を通り黄海に入ることを船長から聞かされた。このことから船長以下船の人たちが気を配って頂いたことが感じられる。午後7時に関門海峡を通過した。今回輸送したキリンは宮崎フェニックス動物園から譲ってもらったもの

で、約1カ月前にトラックで関門橋を渡ったばかり、こんどは船でその橋をくぐって一路外洋へ、風が少し強くなり船も揺れるがキリンもクロヒョウも元気。

◆6月11日、天候良好

午前6時、キリンは昨夜与えた野菜は全部食べ水もバケツ一杯飲んでいる。大分慣れたようだ。クロヒョウも元気だが便が出ないのが少し心配だ。見渡す限り海、海、海、たまに水平線に島らしき黒い陰が見えるぐらい、海鳥の姿すら見えない。船上での生活3日目、一日がこれほど長いものかと思つづく。夕方、水平線に沈む夕日を眺める時だけは全ての事を忘れさせてくれる。午後9時、夜の巡回、キリン、クロヒョウは元気だ、この夜、数隻の漁火を始めて見た。

◆6月12日、くもり

キリンもえさをよく食べ心配なし、クロヒョウも心配していた便も出て一安心。船はもう渤海湾に入ったらしい。行きかう船も多くなった。明日は天津、輸送オリのナット締めなど準備にかかる。キリンもクロヒョウも元気だ。

◆6月13日 天候良好、天津新港到着

午前6時、巡回、異常なく元気だ。天津新港はもうそこに見えている。やっと着いたという感じ、輸送オリの点検、荷物の整理など下船準備に入る。接岸バースがふさがっているため一時沖待ち、この間にお世話になった船長や船員

▼船上での飼育管理



にお礼のあいさつ、本当によくや
って頂き、感謝の念で一杯、謝
謝、謝謝の連発、午前12時やっと
天津新港の岸壁に着く。天津市や
天津動物園の関係者、それに先に
着いていた王子動物園協会の山神
常務らが迎えてくれる。午後2時
に荷降し作業が開始され、トラッ
クに乗せられたキリンとクロヒョ
ウは天津動物園へ向う。こども神
戸と同じように電線や陸橋があっ
て輸送は極めて困難、公安警察、
港湾関係者が護衛に当たってくれる。
天津の市内に入ったのは自転車で
ごった返す夕方のラッシュアワー、
ひやひやしなながら何とか天津動物

園に着いたのが午後6時でした。天津動物園の
キリン舎で狭いオリから解放したキリンは以前
に贈った雄と顔をすり寄せて寄り添う姿をみて、
これで私たちの任務は無事果たせたと満足感に
浸りました。

6月15日には天津動物園で今回贈った動物の
贈呈式が行われました。たくさんの子供たちの



▲天津動物園キリン館前での贈呈式

人垣に迎えられ、小学生の音楽隊の演奏で始
まったこの式に参列しました。この時の感動はい
つまでも忘れることのできない思い出となるこ
とでしょう。この動物輸送が無事に終わった陰に
は「橙雲号」の人たち、天津の人たち、そして
王子動物園の仲間たちの友情と協力があってこ
そ実現できたもので、それらの人々に改めて感
謝する次第です。 (松尾嘉則、村田浩一)

ヨーロッパカワウソですよろしく！

王子動物園にヨーロッパ・カワウソがきました。このカワウソは神戸市の姉妹都市であるソ連
・リガ市の動物園から親善動物として贈られたカップルで、5月14日に飛行機を乗りついで無事
到着、元気で仮りの獣舎に収容されました。

カワウソは食肉目イタチ科の動物で、ラッコの仲間で、水中の生物を食べるため潜水が上手で、
足には水かきがついています。日本でも明治時代までは本州、九州、四国に住んでいましたが、
カワウソの毛は温かく水をはじくことから毛皮を目的に人間が獲りだしたため急に数が減り、現
在では四国にごくわずかに住んでいるらしく、絶滅寸前です。これは日本だけでなく、世界的にも
数が減り、大へん貴重な動物になっています。

日本では東京上野動物園など10園館で19頭のみが飼育されていますが、いずれも名古屋以東ば
かりです。従って、西日本では当園だけで、又、ヨーロッパカワウソとしては静岡の日本平動物
園と当園だけです。

今回、贈られたカワウソは若いカップルです。ひょうきんな顔、スリムな体つき、水槽の中で
好物のどじょうを追いかける姿や2頭でじゃれ合
うしぐさ、など今や王子動物園の人気者になっ
ています。カワウソは大へん遊び好きでいたずらっ
子です。水槽の栓を抜いて水を流して遊びます。

8月には、動物科学資料館の横に新しく建てら
れた専用のカワウソ舎に移ります。そして、皆様
から応募されたかわいい名前が付いていること
でしょう。
(谷岡正之)



動物育児日記

◆あしかの人工ほ育

昭和60年6月29日アシカ池の産室で午後4時ごろオスの赤ちゃんが生まれました。それは元気な赤ん坊で、よく鳴きお乳をねだっていました。お母さんも、いっしょうけんめい赤ん坊の面倒を見ていました。いままでアシカの出産はほとんどが早朝で、季節も6月ごろにきまって生まれます。この赤ん坊はすこぶる元気で、数日後にはお乳を飲んだあとで水の中に入りもうはや、泳いでいました。赤ん坊の授乳はきまった時間ではなく、赤ん坊の鳴き声によって、母親がその都度お乳を与えていました。生後6ヶ月すぎるところから親子の関係が、すこし変化したように思われましたが、このまま見守る事にしました。実は母親は妊娠しており、お乳があまり出なくなっていたのです。子供は盛んに、お乳をねだっていましたが、母親はたまには与えるものの、ほとんど子供に対しては拒否する様子がよく見られるようになりました。そのためか生後8ヶ月頃になると子供は瘠せ細るいっぽうでした。子供を見ていると母親に対して、うったえる動作もなく母親も無視していました。子供は、お腹がすいているのでしょうか、井戸水の落下してくる所で、口を開いて水を飲んで空腹感をいやしていました。この様な状態がかなりつづいたため、私達は、たまりかねて、ために親達の餌であるアジを半分



切って子供の側に置いて見ました。数日間、アジを食べているかどうか観察しましたが、食べたようすもなく、このままほっておけば死を待つばかりではないかということで、つかまえて動物病院に収容しました。すぐに栄養剤と抗生剤を注射し、海獣用のミルクを強制的にチューブで飲ませました。それとためにアジを数匹隔離室の中に置いて、様子を見る事にしました。この時子供の体重を計ったところ、やはりお乳やえさが十分ではなかったため13kgしかありません。普通、健康なアシカで、生後8ヶ月頃の体重は25kgはあるはずです。



野生では、繁殖地でたくさんの子供が生まれ、(カルフォルニア沿岸5月～6月、ガラバゴス諸島付近10月～12月)その土地で3ヶ月～4ヶ月過ごしてから回遊にでます。赤ん坊は、母親に授乳を受けな

がら同じ年代の子供達と一緒に浅瀬で、タコ、イカ、小魚などを追いかけて遊びながらやがて、親達と一緒にとらえて食べる事をおぼえるのです。しかし動物園の生まれる子供は一緒に遊び学ぶ仲間がおらず、練習のために、生きた魚なども与えていません。ひとつにはこの様な理由もあって、赤ん坊がなかなかうまく育ちませんでした。ですから、今回は飼育係や獣医が、なんとか、育つよう

にと親から離して飼育する努力をしたのです。そのかいがあって入院して数日後には餌であるアジを自力で食べてくれるようになり、体力も回復し、1ヶ月後には親達のもとにもどす事ができました。退院の時の体重も23kgに増していました。

飼育係として初めての経験でひじょうに参考になり、つぎに生まれてくる赤ん坊にも今回得た知識を役立てて行きたいと思っています。

(三角勝利)

◆果下馬の育児

果下馬は中国・広西チワン族自治区に生息するポニーの一種で、日本では王子動物園だけで飼育している珍しい馬で、昭和59年秋に友好動物として天津動物園から贈られました。

果下馬の特徴は、果樹園で作業に使われていただけに四肢が頑丈で短く、胴が太いことです。性格は荒く他の動物に攻撃を仕掛けることがよくあります。しかし人間にはおとなしく、頭が良いのか人を見分けていて、好きな順からランクづけをしているようです。

ところで、当園では昨年2月に初めて果下馬の赤ちゃんが生まれました。しかし、このときは中国で妊娠して、日本に来てから出産した

ものでした。そして、今年も果下馬の赤ちゃんが生まれました。この赤ちゃんは当園で妊娠したものなので、これが純粋な意味で日本で初めての果下馬の赤ちゃんと言えるでしょう。

今回、果下馬が出産したのは、4月13日のことで、私達が獣舎に行ったときには、すでに出産した後でした。このときは、まだ座ったままで、体に羊膜の一部が付いており、羊水でびしょぬれの状態だったので、生まれた直後だったので。この赤ちゃんは雌で、この日桜が満開だったのでちなみ「さくら」と命名しました。生まれたときの体重は15キロで、体高は62センチでした。

その後、私達は赤ちゃんの羊膜を取り、体をタオルでふいてやり、母子共に隔離室にうつし、飼育をはじめました。このように飼育係が出産を手伝うのは、家畜に近い動物だけで、野生動物の場合は遠くから見守るようにしています。もし野生動物の出産時に私達が手助けしようとする、ただでも出産で神経質になっている動物を興奮させて、育児を放棄したり、最悪の場合子供をかみ殺すこともあります。それから親子を隔離室にうつした目的は、母親におちついて育児に専念させるのと、狭い獣舎で雄と同居させていると、雄が雌に攻撃される恐れがあるためです。いつもは雄のほうが強いのですが、出産すると雌のほうが強くなるようです。これは、人間の社会も同じではないでしょうか？まさに「母は強し」と言ったところですよ。

さくらも今では、体重約40キロ、体高約75センチと順調に育っています。今はまだ父親と離して、ロバ舎横の隔離舎で飼育していますが、このまま順調に成育すれば、今年の秋頃には父親のもとにもどし、昨年の子も含め家族4頭の生活が始まることになるでしょう。(兼光秀泰)





▲□ バ(7月1日生れ)



▼シマウマ(6月12日生れ)



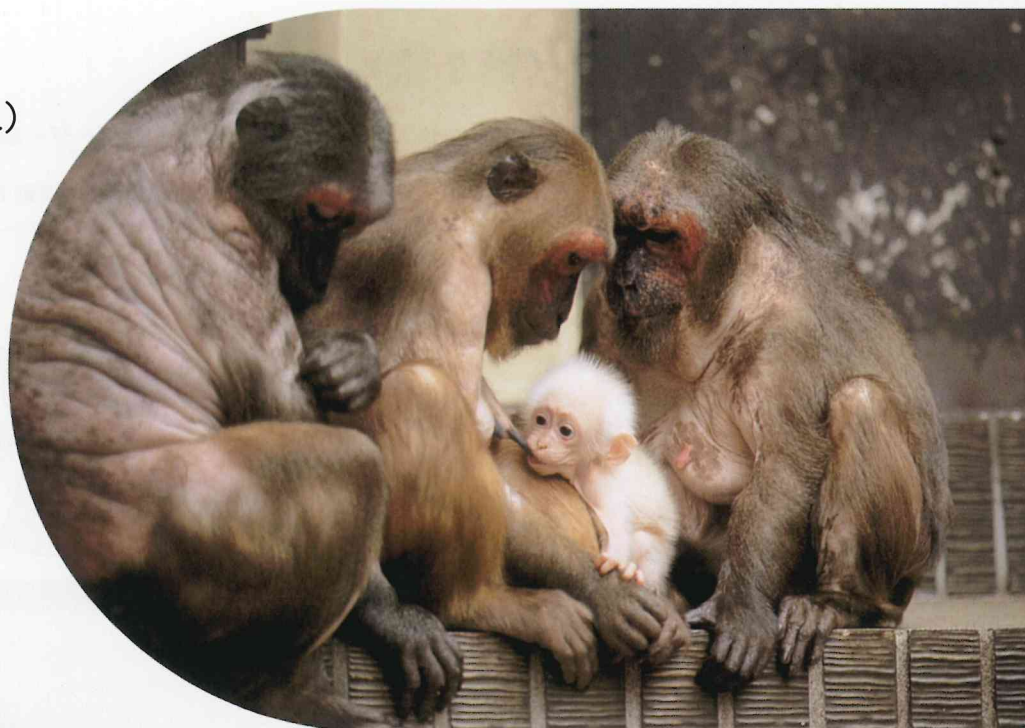
▲アシカ(6月24日生れ)



(撮影 福田元二)

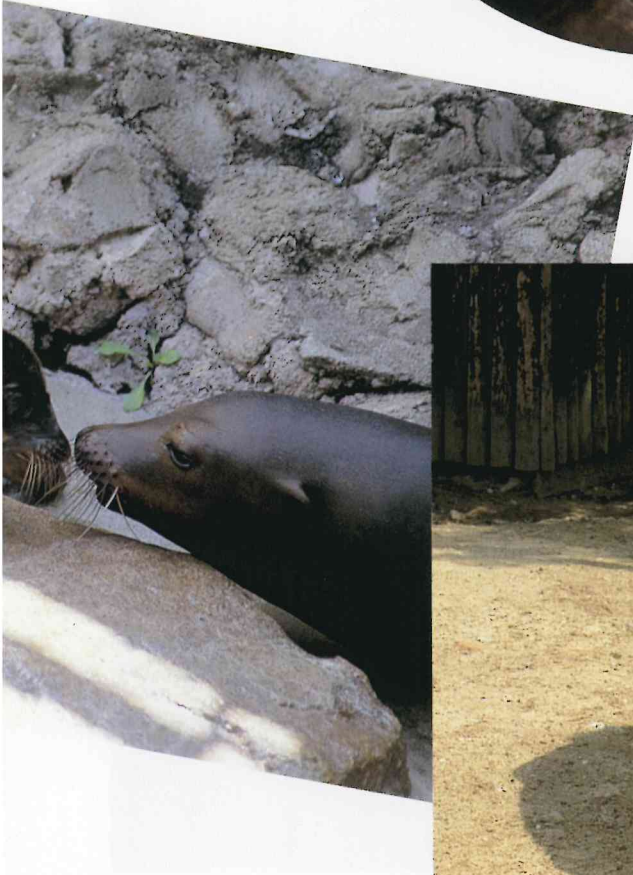
かわいい動物の親子

◀リスザル
(5月14日生れ)



▲ベニガオザル(5月17日生れ)

▼果下馬(4月13日生れ)



飼育うらばなし

◆夜の動物観察記〈第1報〉

今、私たち飼育第2班は動物たちの健康を知るうえにも人のいない夜の生活ぶりを正しく知っておこうと24時間の行動調査を行っています。

〔カワウソ、アシカ、ペンギンたちの夜〕

猿類、トラ、なども観察しますが、やはり話題のカワウソ、アシカ、ペンギンを、まっ先にはじめました。

日中は午前7:00。9:00。13:00。17:00。そして月に1回深夜1時間おき24時間の観察を行っています。

〔夜の忍者観察〕

しかし、あくまでも動物たちに意識されたのでは本当の姿でなくなります。みな忍者のようです。

- 黒っぽい服装。
- 外灯に自分の姿をうつすな。
- ゆっくり足音をたてるな。
- すばやく観察せよ!
- そして正確に記録せよ!

以上が“合言葉”です。

「そんな苦労しなくてもテレビで観察すればいいじゃないか!」

ごもっともな意見も耳にしましたが、そうした設備をしなくとも。

一人一人が足を運び、じーと隠れ自分の目で確かめることで、思わぬ失敗があったり、新しい発見があるのです。

〔フクロウやツルに見つかりみな起きる〕

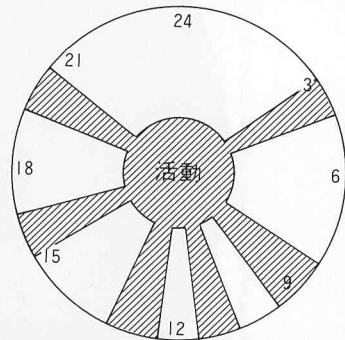
もちろん懐中電灯は持ちません。小さなメモ1枚持って、出来る限り遠くからの観察ですが、すぐ、フクロウやツルクジャクに見つかり大声で鳴かれてしまいます。

若手組飼育員は忍者の目を持っていても実年組(56歳)は、暗くて何も分かりません。「老眼鏡どこや……!」の連発です。

しかし、そこは、うまく夕暮れと、早朝には年配組、深夜は若手組と観察割もうまく配慮されています。

〔カワウソは夜にグーグー寝ているぞ!〕

カワウソが起きて活動していた時間

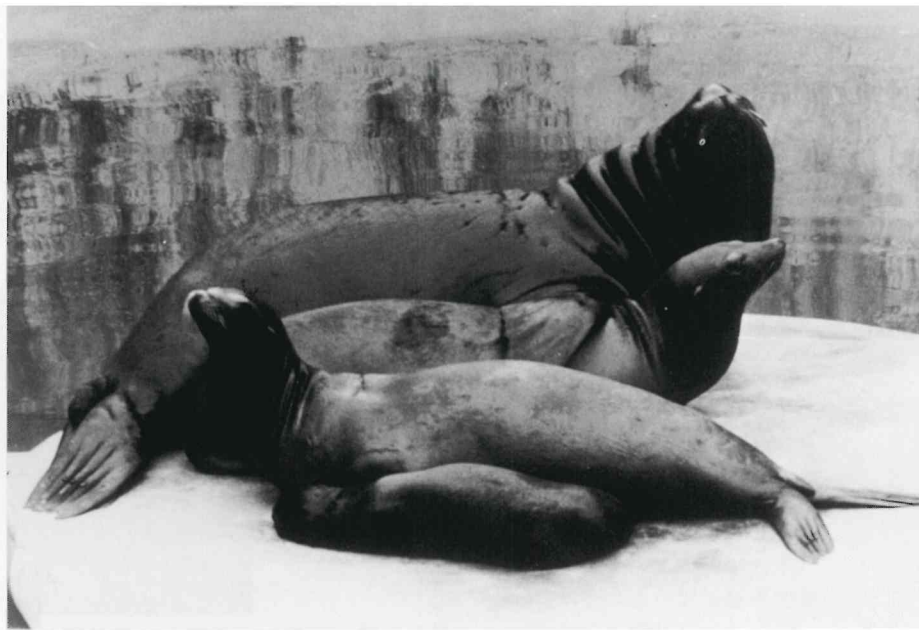


▲ヨーロッパカワウソのペアー

まだ、まだ詳しく分からないが、24時間のうち、よく活動していた時間を少しまとめてみると、次のような日課であることが分かってきました。

(昼間)は泳いで休み、また泳いで魚を食べています。またよく遊びます。

(夜)は20時頃に一度、起きていたことが多かったが、21時～3時までではオス、メスともぐっすり眠っていました。



▲アシカのファミリー

〔用心深いアシカ一家も陸で休む！〕

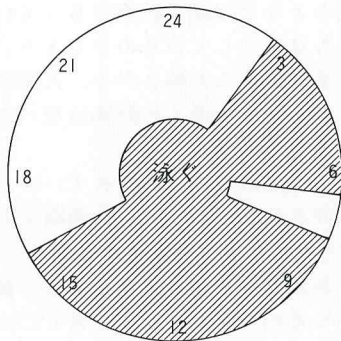
(夜)になると、アシカはたいへん用心深くなることが分かりました。

カワウソやペンギンは平気で眠っていてもアシカは外灯の光や街の騒音にすぐブルとびこんでしまいます。

やはりヒレアシ目は陸では走ることもできないからでしょう。

そこで記録をまとめてみますと、陸で休むのは、閉園後、17:30以後から夜中の2:50分位までが最も多いようで、午前3:00には、早おきてほとんどが泳いでいます。

アシカの泳ぎ



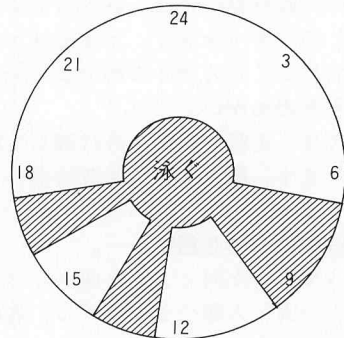
〔泳ぎよりも陸の時間がずっと長いペンギン〕

ペンギンは、カワウソやアシカのようにエサのあとも泳いで遊ぶことはあまりありません。すぐ、陸に上って羽の手入れをしています。

水中では分からないが、陸に上るとオス、メ

ス2羽は寄りそって休むので「夫婦」だとよく分かります。また、ペンギンは死ぬまでいっしょで、ケンカ別れなどありません。

ペンギンの泳ぎ



〔まとめ〕

昼間と月1～2回の24時間記録は休みなく続けています。

(泳ぎ方。)(眠り方)の中にも、生きている本当の姿が、あります。それは、きっと私たちに、何かを教えてくれることでしょう。飼育第2班、これからも「あつと言う発見をめざして頑張ります。」

(飼育第2班、亀井一成、岸田一也、三角勝利 岡本正勝、藤井頼久、中岡正利)

— 動物 なぜ なぜ 問答 —

●ウサギが穴を掘って困ります。それに、どうしても赤ちゃんを死なせます。何故でしょうか？よくある小学校の飼育班からの質問です。

ウサギはもともと日本にいたものではなく、ヨーロッパ(スペイン)にいるアナウサギを原種として改良したもので、ふつう「飼ウサギ」とよんでいます。

飼ウサギは、アナウサギとよくて、前足が短かく穴をよく掘って巣穴をつくる習性をもっています。

それは群ですんでいても、自分の巣穴、つまり個室をもっているのです。

特にメスは妊娠すると巣穴に一頭だけ隠れて暮し、出産4～5日前になると、自分の胸の毛を抜いては、口にくわえて巣穴にうまく敷つめます。これを「産座」つまりお産をする場所をつくるのです。

〔妊娠期間〕は28～30日で、5～6頭を生みますが、巣穴は暗いほど落ち着けるので、決してのぞいてはいけません。

学校での飼育舎は狭いので巣穴に他のウサギが入ったりするので、子を口にくわえて出てきたりするのです。

そこで、学校では巣穴ではなく、飼育舎の中で妊娠したメスを箱で飼ってやると、子ウサギをうまく育てるものです。

〔オス・メスの見分け方〕

子ウサギの時は見分けにくいものですが、3～4カ月すると、後足の間(鼠径部)に左右に1個づつの(睾丸)が、でてきます。イヌやサル、ヒトのようにひとつの袋に2個の睾丸があるのではなく、ウサギは左右にふくらんでくるのでよく分かります。先生といっしょに抱きあげて一度見分けてみましょう。

〔ノウサギとのちがいがい〕

ノウサギは、山野を駆けるのに適して前足が長い。また、日照時間や気温の変化で冬になると、白い毛色になります。飼ウサギは毛色は変わらない。(亀井一成)



●鼻は口ほどにものを言い……。

「動物って、皆な同じような顔をしとるけど、動物同志は見分けがついとんのやろか？」

人間なら一人一人顔つきが違うし、名前も違うから「あっ、鈴木さんこんにちは」「山田さんお元気ですか」などとちゃんと区別してあいさつもできます。でも人間のような複雑な言葉をもっていなくて、人間にはどれも同じような顔つきをしているように見える動物たちはどうしているのでしょうか。

動物たちは、臭いで自分の存在を示し、臭いで相手を知るので。もちろん鳴き声や、人間には分からない顔つきの違いなどでも見分け、聴き分けているのですが、やはり多くの動物は臭いを自分と他人との違いの目印にしているようです。

ネズミで最近調べられたことですが、臭いで相手を区別することは遺伝子に支配されていて、これは細菌のような異物が体の中に入ってきた時に「あっ、これは自分のものじゃないぞ」と判断する遺伝子と同じものなのだそうです。ほんのかすかな臭いだけでも「変なやつがやって来よった、気いつけなあ

かん」などとわかるのです。こうなると、動物同志は区別がついてるのですか、なんて言うておれませんか。

「あれ、あなたは田中さん、いや山口さん、じゃない木村さんだっ……たかな？」とまどっているのは人間だけかもしれないのですから。「くんくん、この臭いは鈴木さんだ！」なんて使える便利な鼻がそういう人には必要かもしれません。

(村田浩一)



動物もの知り手帳

～なんでも知っちゃお!～

●鳥の病気

世界には8600種以上の鳥類があり、この内数百種が、愛好家に飼われています。小鳥はケージで飼うことができ、一見飼いやすく思われています。しかし、哺乳類と異り、その形態からしてあまりよく知られていない感じがします。

犬、ネコの病気についても、「犬が風邪にかかるのですか」と不思議がる人も多い世の中です。まして、鳥が風邪をひくということは考えもおよばないのが普通ではないでしょうか。

動物園にも、カラスの子を拾ったが元気がなく困っているとか、スズメの子をどうして育てたらいいとか、色々電話の問い合わせがあります。そ

こで、「鳥類もガンになりますとか、急性胃腸炎を起こしますとか、それは食中毒ではないでしょうか」とか答えると不思議そうな答えが返ってくる場合があります。また、「スズメが死にそうだから助けて下さい」と午後5時過ぎに電話をしてこられる方もおります。小型の鳥が元気がなく、誰が見ても一見して病気と分かるようになりますと、もうほとんど、次の日には永眠されるというのが現状です。鳥自体、少々体が悪くても、それを隠そうとするため発見が遅れます。それは動物の本能というべきか、自分が弱っていることを示すことは、他の動物のえじきになることを意味します。そのため、自活能力が無くなり、死一步手前のところまで来ませんと、症状をだしません。これが病気の発見の遅れになっています。

たまには、目が見えなくなった鳥がふらふらになって入院し、えさを与えたところすぐに元気になったといった、人間では考えられないような珍事もあります。これは目が見えないため、えさを取れなくて空腹のため、倒れかけていたということです。全く言葉を話せない動物達を見ていると、言葉の大切さを痛感いたします。

それではどうしたらよいかといいますと、毎日鳥の状態を良く観察し、糞の状態や食欲、鳴き声、動き、発情周期などを良く知っておく必要があります。異常に気付いたらすぐに獣医科病院で見て貰うことです。鳥の病気には外部に寄生するアカダニ、疥癬ダニ、ハムシなどが認められます。また、内部寄生虫としては、コクシジウム、トリコモナス、線虫、条虫、吸虫などがいます。この外、細菌性、ウイルス性の病気やビタミン不足による羽毛の抜けや、セキセイインコのロウ膜の変色などに見られる精巢ガンもあります。カルシウム不足のくる病気等、数をあげればきりがありません。鳥と人間では型が違うのでその内臓等も異なるのだろうと考えられますが、基本的にはほぼ同じです。鳥は小便をしません。腎臓は人間と同じように腹腔の背面に左右1つづつあります。治療薬も人のものと同じものを使用する場合があります。小鳥の病気は今申したように沢山ありますので、治療することも難しく、病名は分かっても死亡してしまうという事例が多いのです。病気にならないように常に、えさや飼育環境に気を遣って、病気の子供をすることが大切です。毎日、水を替え、えさは清潔な器に入れ、太陽にあててやり、冷暖房を行っている室ではこれらの風が直接あたらないようにすると、常に小鳥の立場になって飼育するのが病気予防の秘訣です。

小鳥との付合には死の別れはつきものです。それは人間の方がはるかに永く生きるからです。インコのように永く生きるものでも動物園の飼育記録でも41年8ヶ月（オオバタン王子動物園）というのが最高です。小鳥を飼う方はこのことを知って、大切に飼って下さい。

(加納 至)



トピックス (61年2月～61年6月)

◆こうべの動植物園パネル展開催

神戸市の5施設（王子動物園、六甲山牧場、森林植物園、須磨離宮公園、須磨水族館）が、共同して、4/16～24まで、須磨パティオで4/25～5/6まで、北野のラインの館で、パネル展を行い観覧者の目を楽しませました。

◆「旧ハンター住宅」春の内部公開実施（4月1日～29日）

園内にある、国指定重要文化財「旧ハンター住宅」の内部を1ヶ月間公開し、異人館ガールによる案内などで、入館者の好評を得ました。

◆神戸まつり動物園参加（5月18日）



毎年5月に開催される神戸まつりに、今年は動物園が参加しました。「動物園の四季、キンシコウメモリアル」をテーマに、ヌイグルミのキンちゃんなどが加わって、まつりのムードを盛りあげました。

◆ソ連リガ市からカワウソが贈られる

5月14日にソ連・リガ市から、友好動物としてカワウソのつがいが贈られました。18日には、神戸市から笹山助役、リガ市からリリヤ・プロードニチェ副市長が出席し、贈呈式が行われ、その愛らしい姿やしぐさは、見る人々を喜ばせています。



◆キリン・クロヒョウが天津へ

友好都市天津へキリンとクロヒョウのメス各1頭がが親善使節として、6月9日神戸港を出港同13日に無事天津に到着、天津市民の歓迎を受けました。この輸送には当園から村田浩一、松尾嘉則の両氏が同行しました。

◆今年もベビーラッシュ

3月から7月にかけて、フラミンゴ、シマウマ、アシカ、ベニガオザル、ハスザル、カカバ、ロバなどのベビーが続々と誕生しにぎやかになりました。



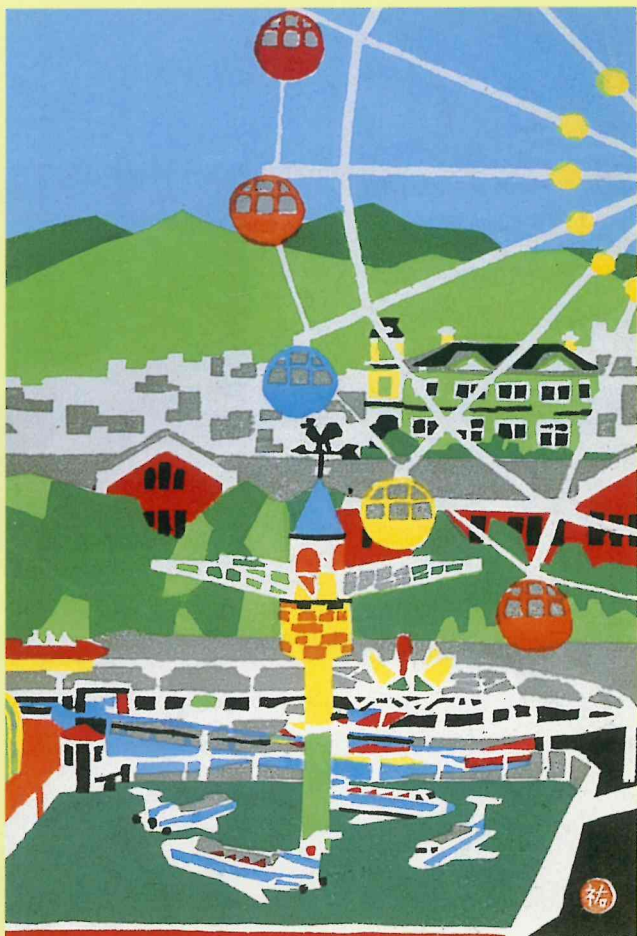
▲フラミンゴのひな

◆動物科学資料館建築工事終了

昭和62年3月オープン予定の動物科学資料館の本体建築工事が、ほぼ終了しました。来年のオープンに向けて、展示の計画も着々と進んでいます。又、併設して作られたペンギン舎とカウソ舎は8月から動物を収容し一般公開する予定です。



版画で見る王子動物園（その4）



遊園地

動物園内にあり、大観覧車や飛行塔など子どもたちに人気のある乗りものが、いっぱい。

国画会・日本版画協会会員で神戸出身の著名な版画家・川西祐三郎先生にお願いして、王子動物園を版画で描いて頂きました。園内売店で5枚セットにして販売しています。

◆編集後記

はだたき20号をお届けします。今年の春は、フラミンゴやカバなど多くの動物たちのベビーが誕生したり、ソ連リガ市からカワウソが、贈られたりして、園内をにぎやかせました。又、来年3月オープン予定の動物科学資料館の建築も完成し、準備がすすんでいます。新しく変わりつつある王子動物園にどうぞ、ご期待下さい。（編集室）



はばたき 第20号

昭和61年7月20日発行

編集：神戸市立王子動物園
TEL. (078)861-5624

発行：神戸王子動物園協会
TEL. (078)801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社